

総務省から海外機関へ

統計局総務課課長補佐

井岡 貴司 Ioka Takashi

統計分野における国際業務

日本のプレゼンスを高める

現在は統計局で国際業務を担当しています。少子高齢社会を迎えた日本では官民を問わず、多分野においてグローバル展開が重要になっています。これを効果的に展開するには日頃から国際社会に日本のプレゼンスを示すことが大切です。これは統計行政についても同様であり、統計局では積極的に国連の国際会合などに参加するとともに、ホスト国として日本で国際会議を開催しています。また、途上国の統計技術支援にも力を入れており、最近ではネパールやエジプトへの専門家の派遣、研修生の受け入れなどを行っています。さらに、中国、韓国、ベトナム及びモンゴルの4か国とは個別に二国間交流を行い、より深い関係を構築しています。グローバル化が進む統計行政を円滑に進めるため、日頃から国際社会における日本のプレゼンスを高める努力をしています。

フィールドは無量大

「総務省ってどんな省庁なの?」という単純明快な質問に即答できないのが「総務省」です。総務省のWEBサイトを見ても、掴みどころがない印象だと思います。ここが総務省の強みです。本当に幅広

い業務を所管していますので、やりたいことが決まっている方のみならず、まだ何をしたいかを決めかねている皆さんにとっても、やりがいがあり、かつ、能力を発揮できるフィールドが必ず見つかるはずです。私自身これまで、統計局では大規模統計調査の企画実施をメインに担当する中で、諸外国、関係企業、各府省、地方公共団体など様々な仕事をしてきました。その途中、総合通信基盤局での電波行政(電波環境整備)、内閣府での国際交流事業などの幅広い業務にも携わってきました。総務省という無限大のフィールドで皆さんの能力を発揮してみませんか。



自治体国際化協会シドニー事務所所長補佐

菊田 大介 Kikuta Daisuke

海外から見る日本の地方

自治体の国際化を多方面から支援

私が勤務している自治体国際化協会は、東京に本部を構え、シドニー事務所のほか、ニューヨーク、ロンドン、パリ、シンガポール、ソウル、北京に海外事務所を設置し、日本の自治体と世界各国の架け橋として活動しています。シドニー事務所では、オーストラリア・ニュージーランドにおいて、日本の自治体関係者が現地で行う活動や自治体間の交流に対する支援、地方行政に関する情報の収集・提供などの業務を行い、自治体の国際戦略・国際業務の総合サポート役として、自治体の国際化を多方面から支援しています。現在は、日本の自治体がパンデミック対策を講じるうえでの参考となるようオーストラリアの自治体による新型コロナウイルスパンデミックへの対応についての調査なども行っています。

想像を超える経験と人との出会い

総務省には、実に様々な経験と人との出会いがあります。私自身も他省庁へ出向することもありましたし、実際に制度を運用する自治体へ出向する機会もあり、それぞれの出向先では、色々なバックグラウンドを持った人との出会いがありました。また、海外勤務

となれば、現地の自治体職員と日本と共通する政策課題について議論して、国際的な視点から日本の地方を考えることもあれば、当地の日本祭りなどに日本の自治体をPRするために出展した際には、現地の方から海外から見た日本の地方の魅力を教わるなど、日本では経験できない新たな発見や素晴らしい出会いが待っています。入省当時は、海外で勤務する今の自分を全く想像していませんでしたが、そのような想像を超えた素晴らしい経験と人との出会いがあるのが総務省の魅力だと思います。



※筆者は右端

幅広いフィールドで活躍する職員

外務省在ブラジル日本国大使館二等書記官

根岸 正幸 Negishi Masayuki

ICTで世界に貢献

つながる

ブラジルは、南米最大の経済大国であり、海外では最大の日系社会を有する友好国です。また、ICT分野でも地上デジタル放送の日伯方式の世界での普及を共に進めるなど、協力関係を築いてきました。現在、ブラジルでは5G導入の真っただ中であり、日本のICTを通じて、日本とブラジルの友好関係をさらに発展させることが、現在外交官として勤務している私のミッションです。また、ICT以外にも保健分野の業務にも携わることができています。急増する新型コロナウイルス感染症に対して、日本とは異なる国土、社会状況を背景に実施されるブラジル政府の政策に間近で接することはまたとない機会です。一見すれば日本のICT政策とは無関係ですが、違った角度から見直すことで新たに見えてくるものもあり、今後、総務省において政策を考える上でも有意義な得難い経験となっています。

あなたの力で問題解決

ICTの重要性はかつてなく高まっています。想像を超えるスピードで新たな技術が開発され、サービスが生まれ、同時に新たな問題・

課題が発生しています。ICTを担当する総務省では、日々生じる幾多の問題・課題に対して、一人一人が責任を持って取り組むことができ、これは働く上で何事

にも代えがたい魅力です。一方で、多くの問題は個人では解決できません。総務省ではこれから入省される皆様の力を必要としています。情報通信行政は、ICTの知識だけでは進められません。表現の自由、通信の秘密、個人情報といった非常に重要な権利の保障と、新たなICTの利用を両立させることが必要であり、法律、経済、人文学など様々な分野の方が活躍しています。未来を担う皆様の能力や経験を活かし、国民の皆様のため、社会をデザインし、誇りに思える政策を実現する機会をすぐに得られるはずです。



在ミャンマー日本国大使館二等書記官

小田 晃一郎 Oda Koichiro

ミャンマーでのかけがえのない経験

発展途上のダイナミックな環境

私は現在、在ミャンマー日本国大使館に勤務しています。主に通信・放送・郵便分野におけるODAや日本企業支援を担当しています。ミャンマーでは携帯通信市場における競争環境が未成熟な面があり、また行政・民間部門でのデジタル技術の活用があまり進んでいないといった課題があるため、我が国からの支援が求められています。このため、携帯通信市場の健全な発達に向けた我が国の競争ルールの紹介、サイバーセキュリティに係るODAプロジェクトの組成、マイナンバーカード制度の運用実績や知見を活かした国民ID制度の提案、日本型郵便システムの紹介といった業務を行ってきました。相手国側のニーズを正確・迅速に捉え、我が国から提供できるノウハウ・技術を関係者と検討し、ミャンマーの発展に貢献していくという仕事に非常にやりがいを感じています。

大切にしていること

総務省では、在外公館や国際機関等への出向というチャンスがあります。私の場合、将来的な在外公館への赴任を見据え、その国でどのような貢献ができるのか、そのために今からどういった準備を

しておく必要があるのかということ意識しながら、日々の業務や語学勉強へのモチベーションを維持してきました。私も総務省の諸先輩の方々の姿勢から学んできたつもりで

すが、目標を持ち、将来の自分の姿を想像しながら、目の前の業務にどのように取り組んでいくかという意識を持つことが大切だと思います。また、ミャンマーという全く世界の異なる環境の中での業務経験は非常に貴重なものとなりましたが、その国の文化に触れ、人々との交流を深められたこともかけがえのない経験です。将来への希望を持った皆さんとご一緒に働けることを楽しみにしています。



※筆者は左から2番目